

1. 期日 平成28年度10月24日(月) 13:00~15:30

2. 場所 栃木県立矢板東高等学校 会議室

3. 内容

(1) 会場校校長挨拶(矢板東高 校長 永山 一夫)

(2) 情報交換

①科 目 普通科の多くが「社会と情報」を実施している。一部「情報の科学」を実施。

②単 位 数 1年次に2単位の学校が多い。2年次に2単位や複数学年で実施の学校もある。

③内 容 ワープロ、表計算、プレゼンテーションソフトを用いた実習を行っている学校が多い。情報モラルの基本知識も重視している。学校によっては他教科と連携をしているところもある。情報処理検定やビジネス文書実務検定を行い、モチベーションを上げている学校も多い。

④課 題 など 生徒の個人差が大きい(実技)
情報モラルの指導をしているが問題行動が減らない。
臨免対応で担当者が毎年異なる場合がある。

⑤そ の 他 臨免や免外申請について

(3) 講演会「教職員向け講演」

講師 LINE オフィシャルインストラクター 柴田 保文 氏

①青少年の LINE 利用実態

LINE を利用して多く経験した「嫌なこと」では、知らない人からの「友達追加」や、スタンプ連打、既読無視などが多かった。「友達追加」は昔の友人の電話番号を新しい人が使っているの、追加される可能性がある。スタンプ連打はかまわってほしいからやってしまう。既読無視を気にするのは日本の文化、返礼の気持ちが大きいためである。

②青少年ネットリテラシー啓発の考え方

情報モラル=日常モラル×ネットの特性理解×想像力・判断力

基本的なインターネットの特性の理解だけでなく、人として備えるべき「倫理」や「思いやり」なども必要である。

③ワークショップ体験

5枚のカードを使い、他人からされて嫌な順に並べる。隣同士でカードを見比べると順序に差があった。ネット上では相手の顔が見えないので、感情が伝わらない。

(4) 藤井産業によるソフトの紹介

「iTutor 5」マニュアル作成ソフト

(5) 事務連絡 監事 大田原高校 吉田俊介先生

研究大会(11月)について